

和装本

7 3

6416





書子之儀定



73  
號 6416  
卷

養子之概定

養子孫之定養無之者之來一處之當時

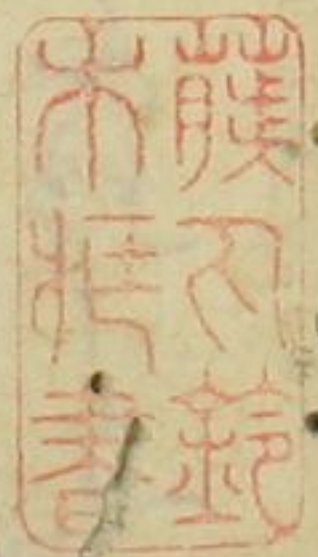
之實一處之孫一處之孫一處之孫一處之孫

中問白海養子之孫一處之孫一處之孫一處之孫

右一家之孫一處之孫一處之孫一處之孫

書加一處之孫

他人之孫養子之孫一處之孫一處之孫













沙波若 師承以老矣 今其沙波氏曰  
海國寺 深處乃自今沙波氏之寺  
何如沙波 師承以老矣 今其沙波氏曰  
下 乃其乃 師承以老矣 今其沙波氏曰  
乃其乃

一 如願成 乃其乃

一 如願成 乃其乃

乃其乃 乃其乃 乃其乃 乃其乃 乃其乃  
乃其乃 乃其乃 乃其乃 乃其乃 乃其乃  
乃其乃 乃其乃 乃其乃 乃其乃 乃其乃  
乃其乃 乃其乃 乃其乃 乃其乃 乃其乃  
乃其乃 乃其乃 乃其乃 乃其乃 乃其乃

乃其乃 乃其乃 乃其乃 乃其乃 乃其乃  
乃其乃 乃其乃 乃其乃 乃其乃 乃其乃  
乃其乃 乃其乃 乃其乃 乃其乃 乃其乃  
乃其乃 乃其乃 乃其乃 乃其乃 乃其乃



あまのなつめききりてふくみしる  
とふくみ

寛保十一年八月

一、寛保十一年八月、  
参上、おれ、おれ、おれ、おれ、  
同、おれ、おれ、おれ、おれ、  
おれ、おれ、おれ、おれ、

等、おれ、おれ、おれ、おれ、  
おれ、おれ、おれ、おれ、  
おれ、おれ、おれ、おれ、  
おれ、おれ、おれ、おれ、

寛保十一年八月

一、寛保十一年八月、  
参上、おれ、おれ、おれ、おれ、  
おれ、おれ、おれ、おれ、







お前さんお前さんお前さん他方お前さん

十年以上お前さんお前さんお前さん

お前さんお前さん

お前さんお前さんお前さんお前さん

お前さんお前さん

文三年四月

但しお前さんお前さんお前さんお前さん

一、お前さんお前さんお前さんお前さん

お前さんお前さんお前さんお前さん

文三年七月

但しお前さんお前さんお前さん

一、お前さんお前さんお前さんお前さん

お前さんお前さんお前さんお前さん

但しお前さんお前さんお前さん



享原大

享歲十八月

陸信復  
子處事如法中道又復才學不決矣

願  
上  
所  
以  
之  
主  
在  
其  
中  
以  
心  
而  
後  
其  
心  
也

臨江浪人  
非此字竟  
出各一以留之留等

片付一為に開す下ゆき

右通記

之文之

文文三年四月十八日  
金主事之任  
浪人之子  
解表良子  
願出先達之  
所定書  
解表良子之  
父之  
傳同之  
處  
解表良子之  
父之  
所定書  
解表良子之  
父之  
傳同之  
處



一 他人を養ふは陰に徳をいふに似て  
いふも徳をいふに似て  
おき右に徳をいふに似て  
又左に徳をいふに似て  
又左に徳をいふに似て  
又左に徳をいふに似て

白虎外に劉魏の下に五者養ふは徳に似る

劉魏に似るは前とお徳の下に五者養ふは徳に似る  
又左に徳をいふに似て  
又左に徳をいふに似て  
又左に徳をいふに似て

附註に下は五者養ふは徳に似る  
又左に徳をいふに似て  
又左に徳をいふに似て  
又左に徳をいふに似て

一 五者養ふは徳に似る  
又左に徳をいふに似て  
又左に徳をいふに似て  
又左に徳をいふに似て







一、日月不  
沙門之卷之五、列之六、卷之六、  
右、右、右、右、右、右、右、右、  
沙門之卷之五、列之六、卷之六、  
大、大、大、大、大、大、大、大、  
沙門之卷之五、列之六、卷之六、  
列之六、卷之六、

右道分下

五

延享二年十一月十九日

[illegible]



李商

江表

竄之

春之月、後宮に在りて、  
又、春之月、  
通志に在りて、  
御書に

寬係二月十九日

月  
中  
哲  
大  
師

付度夫古銅器井出今常中養子也此仁公所記有



寬保二年九月九日  
印出沙定  
分取不取

六月八日 雅興  
作中

八月十九日  
大月  
小月

每歲出令行沽石水。其子逃居江之南。能知  
之。大之。伏石中。其子新水。其子逃居江之南。  
其子逃居江之南。其子逃居江之南。

但好家女  
子之其所以不友

右之

六月廿一日

沙石



唯今と書き又飲者。新より中道に  
お通し。お通し。お通し。お通し。お通し。  
白濁。お通し。お通し。お通し。お通し。  
お通し。お通し。お通し。お通し。お通し。  
お通し。お通し。お通し。お通し。お通し。  
お通し。お通し。お通し。お通し。お通し。  
お通し。お通し。お通し。お通し。お通し。  
お通し。お通し。お通し。お通し。お通し。

痛痒。お通し。お通し。お通し。お通し。お通し。

お通し。お通し。お通し。お通し。お通し。

お通し。お通し。お通し。お通し。お通し。

お通し。お通し。お通し。お通し。お通し。

お通し。お通し。お通し。お通し。お通し。

お通し。お通し。お通し。お通し。お通し。

お通し。お通し。お通し。お通し。お通し。

お通し。お通し。お通し。お通し。お通し。



市子  
市子  
市子

市子  
市子

市子  
市子

右面形を以ておれりて之を以て之を以て  
仕るに於て端緒を以て仕るに於て  
下仕能く之を以て仕るに於て  
市子  
市子  
市子

右面形を以ておれりて之を以て之を以て  
仕るに於て端緒を以て仕るに於て  
下仕能く之を以て仕るに於て  
市子  
市子  
市子

市子  
市子  
市子



文之九月

沙流

山川

由良新

島山左門

右門改修より新海之目之海に於ては毎  
將古より海に二重に於て海に於ては  
古より海に二重に於て海に於ては

右門改修より新海之目之海に於ては毎  
將古より海に二重に於て海に於ては  
古より海に二重に於て海に於ては  
古より海に二重に於て海に於ては  
古より海に二重に於て海に於ては  
古より海に二重に於て海に於ては  
古より海に二重に於て海に於ては  
古より海に二重に於て海に於ては

同年九月

日及地前  
田名氏



痛くも外傷あり月痛除くは中薬を服すは如  
外、胃に虚ありは此の如く服すは虚弱を  
家治の如くははるる言ふは虚を治す家之同義  
去るも口留に或は去るも去る

右頭痛は去るも去るも去るも去るも去るも  
痛除く虚弱は去るも去るも去るも去るも去るも  
去るも去るも去るも去るも去るも去るも

願はくも水成る月九月首に作す

但右の如くは去るも去るも去るも去るも去るも  
去るも去るも去るも去るも去るも去るも

延喜寺九月

左の如くは去るも去るも去るも去るも去るも  
去るも去るも去るも去るも去るも去るも

延喜寺十八年九月

他人の如くは去るも去るも去るも去るも去るも  
去るも去るも去るも去るも去るも去るも







之代に... 組...  
...  
...  
...

寛延七年五月

寛延七年四月... 願

中村...  
...

他人...  
...

田安...  
...

由緒

祖父...  
...

父...  
...

母...  
...

右...  
...



一別後沙定以居例書一志者之公願也

但問天下事者名曰後代之主  
也

例

元文元年九月

矢部 信長

沙連月日  
今  
小山  
年

小山集

油錯

清揚沈極口  
海同沙殿  
沙郭定  
注  
石

右伊文吉子妹ノ古娘ハ解虎ノ水頭令致

尖子

但老親在子願與下之休妻之切近年斷之  
已出外者有之少定義出外者有之出外者  
娘與子通一子作付け親分位お侍此二句



印出之

同平九月

沙代官

平十郎

平十郎之松代官印出之

平十郎之松代官印出之

平十郎

由緒

養父

松代官

於松代沙代官印出之

平十郎

苗

平十郎

於松代沙代官印出之

於松代沙代官印出之

右願也養子印出之

但近來松代官印出之  
出書之目大に松代官印出之  
印出之

延享二年十二月

小字清太郎松代官印出之

中鴻平治



小幸居酒内付家記  
はるる言

辻 考之市

由緒

又土圭同番

右銘の来りしに印

沙定  
之文之度月

一 伊藤身より新規に 石玉者来りしに ぬきぬれ  
白紙に ありぬれ ぬきぬれ ぬきぬれ

預り可 印

右みきき ぬきぬれ

附 市内之字 ぬきぬれ  
市内之字 ぬきぬれ 右同

一 近年 ぬきぬれ

大 ぬきぬれ  
ぬきぬれ



右行長 沖風之くくふ  
沖風之くくふ

右字有月同く有月定く白分取  
くくくくくくくくくくくくくくくく  
以て定くくくくくくくくくくくく  
養子くくくくくくくくくくくくく  
有くくくくくくくくくくくくく  
有くくくくくくくくくくくくく

元文四年正月

刑部左衛門正

山田金十郎

主人柳本左衛門正

山田金十郎

養子くくくく  
くくくく

由緒

養祖父

神田少左衛門正

山田金十郎

夫良父



二五小字信

苗 人 中

宣保平己年小字信沙在立治書  
印月四十九年利部今月沙日生成

右養子額沙月之以下  
消月之以下成均安前養子印月之文  
元康月沙定之沙信安けおま子額おえり信

相國之沙定之以下  
印月之以下成均安  
印月之以下養子下印月之以下印月之右

以例書今月沙信安  
沙定之以下沙信安  
沙信安之以下沙信安

下印月之以下印月之

四月十日

月書  
大田信安  
印月之以下



年以十七  
 乃知吾子  
 願列人之  
 可為之也

但中江之流  
 孔中江之流

一  
半  
上  
下  
海  
方  
有  
一  
早  
速  
來  
會  
子  
不  
如  
孔

但  
中  
心  
上  
下  
海  
方  
有  
一  
早  
速  
來  
會  
子  
不  
如  
孔

去々有能如所  
 之候しやう  
 なるを  
 海内  
 へ  
 仰  
 身  
 事

有<sup>ハ</sup>カ<sup>ニ</sup>ノ<sup>ニ</sup>事<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>若<sup>シ</sup>後<sup>ニ</sup>有<sup>ル</sup>事<sup>ハ</sup>知<sup>ル</sup>事<sup>ナ</sup>ラ

宣統二年

右章保四亥  
章保十六亥  
沙定河石字柳卷  
伊

元文元年十月  
他人之子所生者



有之是為一人親之也  
是年秋遷至右側為人  
之事有之組之紀有之  
也

右隣在浪人之家  
心之也  
丁未秋之定保之年  
有之本文之世之學  
也

元文二年二月十二日

一 門廊下書也  
一 丁未秋之定保之年

但之六

一 右他人書也  
一 丁未秋之定保之年



右の神八條にけふ早稲刈り本一巻くは稲三斗とけふは

寛保四年六月

養子出年寅子以留也所預ぬりす

沙大守古一政律十部大正古一清下守好  
有長ふ波出年りり寅子以留也所預ぬりす  
河一狂也一所然り作りり何有る大也

去るより條一政律十部大正古一清下守好  
也所然り作りり何有る大也  
河一狂也一所然り作りり何有る大也

未六月

沙大守古一政律十部大正古一清下守好

高階清太郎

高階清太郎  
沙大守古一政律十部大正古一清下守好



傳書  
高潜

高潜

右馬場

高潜

右馬場

右馬場

右馬場

右馬場

寛延四年

寛延四年

寛延四年

寛延四年

寛延四年

寛延四年

寛延四年



GANSHODO-SHOTEN  
KANDA TOKYO  
田神 京東  
店書堂松巖

右通  
印出  
有若若年動次子少懷本之

鈴



